



令和3年8月17日
ふるさと教育

【地域課題探究型学習推進事業】

石積みによる魚道づくりの研究を始めました！

私たち多治見高校は地元の笠原川で小さな自然再生を行なっています。これまで笠原川で高校生の手で運べる大きさの石を積んで、川の流れを多様化させ、様々な魚の生息地を作ってきました。今後はそれらの魚の生息地保全だけでなく、上流と下流の川のつながりを回復する活動を行なっていきたいと考えています。

今回、特別に土木研究所自然共生研究センターの実験河川で、約50cmの落差に魚道を作る実験を行う機会をいただきました。魚道を作る際には、私たちがこれまで行ってきた石積みの手法を応用することを考えました。研究員の方から川の魚を増やす方法に関する講義を受けた後で、高校生で石積みによる魚道作りを話し合い、計画しました。その後、土嚢や積む石を準備して、現場で魚が登れるように計画を修正しながら魚道を作りました。およそ1ヶ月後の9月上旬に再度訪問して、魚類調査を行ない、石積みによる魚道の効果を検証する予定です。



森研究員さんの講義を受けました。



魚道に使う土嚢も自分たちで用意します。

<生徒の感想>

川にある段差がその川の生態系に影響を与えていることを学びました。地元の川でも、石と土嚢を利用すれば魚道を作ることができる分かりました。実験河川で石積みで作る魚道の効果を検証し、地元の川でも応用したいです。

実験河川の落差がある場所の上流と下流で魚類調査をした結果、下流の魚が上流に来て

いない可能性が考えられました。落差がある場所に魚道を作ったのですが、思いのほか魚が上っていきけるような魚道を作ることが難しかったです。

実験に参加する前には、魚道を作るためには難しい計算が必要で、計算によって1つの適切な魚道に決まるものだと思っていました。しかし、実際には魚道が必要な箇所に応じて柔軟に作りを変える必要があり、周りの景観などにも配慮しながら作る必要があることが分かりました。今回、研究員さんにいろいろなアドバイスをもらいながら魚道を作れてすごく楽しかったです。



完成した石積みによる魚道

本活動は、多治見ロータリークラブ、河川基金、多治見市土岐川観察館、たじみの自然展実行委員会、土木研究所自然共生研究センターの支援を受けて実施しています。ご支援ありがとうございます。

担当：佐賀達矢・山岡隆太